

# 關西保育界とモンテツソリー女史教育思想

大阪市江戸堀幼稚園 膳 た け

〔大阪市保母諸君は檜崎文學士より心理學の講習をうけ常に根本的研究をせられてありますが更に本年に入りては同學士の指導のもとに各自の調査研究を互に發表する會を有志の間に初められました。此の一篇は同會に於ける膳たけ氏の報告であります。編者〕

私共の初めて女史の名を知りたるは、今より四

年以前(明治四十五年五月)神戸市に於て京阪神聯合保育會の開催せられたる際、倉橋文學士の御紹介による。聯合保育會に於て先生は保育の新標目と云ふ題目にて御講演あり、其御講演中に自由と云ふことに就て、伊多利なるモンテツソリー女史のことに就き鳥渡御紹介ありたり。其夜は茶話會を開催せられ其席上に於てもモンテツソリー女史のことに就き御話出でたり。されど其内容を詳しく承るを得ざりしを以て爾來其實際の方法並に女史教育主義に就て委敷知りたしと苦心せしが、未だ其れを求むる努力の足らざるものによ徒らに時日を経過なし居るのみなりき。然るに茲に感謝せ

ざるべからざるは神戸幼稚園長望月くに氏にて同氏はモンテツソリー女史を研究せらるゝ心深く、恰も雜誌『教育學術界』に京都大學助教文學士野上俊夫先生の女史の著『科學的教育學』を詳細に解説せられ居るを以て、自分にも是非一讀せよとて其雜誌を貸與せられたり。私共は女史の事蹟を知らんと切望せる折柄の事として、飛立計に嬉敷、直に再三熟讀して女史の經歷並に兒童の家の事に就ても大略了解するを得たり。併しなから玩具の如き實際の形體等を實見せざる故、只紙上の掲載のみにては今一際物たらぬ感じせられ、何とかして其玩具の圖形の如きものに依りてなりとも知り度ものと思ひ居る折柄、熱心に求むれば又之に對し

與へらるゝ篤志家もあるものにて、又もや望月氏

御熱心により、同氏の知人なる西洋婦人の方より

此玩具の寫真帖の如きものを借り受け、神戸幼稚

園の職員一同協力一致せられて之れを謄寫せられ

又彩色の如きも成へく實際と違はぬ様に注意せら

れ、未だ一見せざる多くの人々の爲め見せばやと

の厚き御志より十數冊を作られ、東京なる倉橋先

生神戸市各幼稚園及び大阪市保育會並に弊園にも

一冊を寄贈せられたり。之れを熟讀玩味するに其

蒙を啓き實に百聞一見に如かすとの感を深くせり

其後大正二年二月二十三日より神戸市幼稚園に於

て神戸保育會主催の下に、女學院教師横川八十八

氏を聘しは後十回に涉り、モンテッソー女史の

科學的教育學に依り講演會を開催せらるゝことと

なり、大阪市に於て斯道に従事なし居るものゝ内

にて聞度ものは誰にてもこよとの寛大なる御申越

に接し、一同の喜びは非常なるものにして嚴寒の

折柄にも拘らず大阪市よりも多數出席聽講するこ

とを得たり。

次て我西區保育會にては未だ神戸市に出席せざ

りし多くの保姆の爲めに此女史の教育思想を知ら

せ度ものと思ひ、種々苦心せる折柄、市視學園田德

太郎氏には幸ひにも京都大學助教野上俊夫先生

とは御知己の由にて、同氏の御盡力により野上先

生にモンテッソー女史の御講演のことを願出ら

れたることなるが、先生には海外御留學前にて何

かと御多忙の中を斯道の爲めとて御繰合せの上、

御來會下さることとなり、大正三年四月十五日

より前後七回に涉り御懇切に御講演下され、其都

度女史の玩具を京都大學に於て先生御監督の許に

作られたるものを每會御持參下され、御蔭を以て

一同親敷實物に依り御講演を聽き、又思ふ儘に之

れを手に觸るゝを得、益々以て確實なる知識を得

一層よく女史が教育主義並に玩具の實際を知りた

るのみならず、進んでフレールベル氏幼稚園とモン

テッソー女史の兒童の家との比較研究を發表せ

られ、双方の勝れたる點を列舉御説明下されたり。茲に至て初めて女史保育法の嶄新にして何となく目の醒めたるか如く感せられたるも、更に先生の御指導により双方の勝れたる點をよく玩味研究し以て一層斯道に奮勵努力實地に應用せんとするに至れり。

大正三年七月二十五日より五日間京都市保育會主催にて、東京女子大學附屬豊明小學校主事河野文學士を聘し、モンテツソリー女史の講演會あり之れにも列席の榮を得一層女史の教育主義を確實明瞭に了解することを得たり。同先生は云ふまでもなく女史を深く研究せられ非常に趣味を持るゝ處より、大に女史のことに就き研鑽せられたしと申し居れたり。以上は女史を知りたる経路の概要なり、然して去る二月十七日の夜大阪市西區保育會主催の心理學講師文學士檜崎先生には、モンテツソリー女史教育法(自由のことに就て)研究せよとの仰せられしにより以上學習せしことを陳述せ

しに、同先生は更に同女史教育法を抽象的に御説明なし下されたるに依り一層之れを深く了解することを得たり。今や同女史教育法を考ふるに當り倉橋、野上、檜崎、横川、望月、佐藤の諸先生並に京都市保育會、神戸市保育會及び大阪市西區保育會に向て謹で感謝の意を表す。

#### モンテツソリー女史教育主義

女史は幼児の天賦の性質の各要素を自然に發達せしめ依て以て完全なる自立的の性格を涵養するの道は、科學的研究によりて確立せられざる可らずと確信し、教育は幼児の自發活動を基本とし其自然的發達を保護するにありとせり。從て幼児の自發活動を妨ぐるは其本質を破壊するものなりとなし、幼児の知的活動に對して無制限的自由主義をとり、他人の干渉束縛を嚴禁し幼児の自己教育を唱導せり。又感覺練習を以て知的陶冶の基礎となせり。フレーベル氏にありては幼児を導きて世界を知らしめんとするにあれども、モンテツソリ

一 女史にありては幼兒をして自ら世界を造らしめんとするに有り。モンテッソリー女史の教育法に就き保母と幼兒との關係に對する方面は充分に理解せられて女史の自由主義は誰も知らざるものなきに、尙他に一つの重要な方面が割合に看過せられて居るなり。そは境遇を整理善良なる境遇の内に於て知らず知らずに良き感化を受けしめんと努めさせし一面なり。女史は此の科學的教育學に於て境遇を考慮せざる教育は無益なりと云ひ、境遇を變化整理することは實に科學的教育學の根本的原理なりと女史は切言せり。私我國の内外を教育的に變化整理しその内に自發活動の天地を開き、以て第一義の教育を興ふるこそ、モンテッソリー女史の主義に一致するものならんと愚考す。

モンテッソリー女史の思想を加へたる我國保育の近況

現今幼稚園に於て第一に重きを措くは體育にして、我國の如き出來得る丈之れに重きを措き、可

成兒童を屋外に出し自然に接觸せしむる機會を興へ、一方兒童の自由活動を大に尊重して、身體の發達を計り毎月身體検査を施行して以て身體發達の狀態を明にせんと専心努力なし居れり。

兒童を充分觀察せんと思へば、兒童をして自由出來得る丈け自發活動を發揮せしめざれば充分なる研究をなす能はず。されど此自由とは申までもなく放任の自由にはあらず。一定の規律秩序の下に許されたる眞の自由なり。我國の如き實行未だ日淺く充分なる効果は擧げ居らざれども、眞の自由と申事を兒童日々の行ひの上に實行致させんものと苦心せり。此實行を試みるに當りては、保母は先以て其に對する修養を要することにて不完全なる條件ながら大略左の九ヶ條をよく服膺して以て日々兒童に就き此眞の自由の發揮をうながさんと試み居れり。

我國に於て保母の注意すべき要點。

一、兒童を見る慧眼の大切なること及び兒童を研

究するには努力を要すること

二、児童の自由を尊重し誠意誠實を以て對するこ  
と

三、凡て児童は美的に解し行動を共にし以て奥底  
の心意に觸れ得る様注意すべきこと

四、児童の凡てを知るには先以て保母は充分なる  
素養を要すること

五、保母の人格の大に保育上に關係すること

六、フレーベル氏は子供に尋ねよモンテッソリー

女史は子供より習へよと申されたる言葉は大に  
服膺すべきこと

七、児童に對しては可成言葉數を尠なして凡て補  
導の位置によること

八、児童の利用巧みなる表出又はさゝたる表出に  
もよく注意調節なしやる事

九、児童の緩漫なる凡ての行動をよく補導して何  
事も自分にてなさしむべきこと

以上の條件を保母の精神となし、一致協力して

此實行をなさんと努力なし居ることとて、別段兒  
童に對しては何等申聞けたる譯でもなきこととな  
がら、保母の誠意誠實なる努力研究はやがて頑是  
なき児童の小さき心の奥底にも知らずくの間に貫  
徹なし得るものによ、殆んど昨今は児童に對しあ  
まり制止的の言語を用ゆる必要なく、從て保母は  
補導の位置に有て言葉尠なく、児童の状態は以前  
に勝りて快活に且愉快氣にて一般に御し易くなれ  
り。勿論一定規律の下に服従せしむるには、先づ  
以て保母其人の人格の大にあづかりて力あること  
は論を待たず。凡て児童に對しては慈愛同情に富  
み、児童の行動萬事に就ては慧眼を以て觀察研究  
すれば必ず此目的を達し得るものなり。保母の命  
令に児童は服従せず、又思ふ如くに統御し能はざ  
るため制止的の言葉を用ゐざるの止なき場合とな  
り來るは、之れ全く保母其人の斯道に對し研究努  
力の足らざる所以なり。故に斯道に従事なし居る  
ものは出來得る限り児童と行動を共にし児童を充

分に研究したきものなり。

兒童を愉快にも又元氣よき習慣を付るも全く平素より保母の心がけ一にして如何様にもなし得るものなり。嚴寒に候も火桶等には頓着なく何處に風が吹きすさび居るかの態度にて飛廻り驅り廻り居る場合には、保母も率先して此子供の群に入り兒童に化して心行くまで面白く遊ばざれば眞の研究は出來得るものに非ず。我は先生なり子供に化して一緒に遊ぶ事何となくきまり悪き様などと思ふ様では到底奥底の心には結び付くものには非ず。此子供の奥底の心に結び付く様に成り來れば、子供を研究することの面白味は一回と増し、衷心より此研究の趣味深く、子供と保母の結びよりも次第次第に親密となり、凡て模範を保母によりよき習慣は次第／＼に修養され來り、傍より觀察しても何となく親敷一家族の様の現はれ、何となく和氣藹然たる氣風に包まれ居る様の氣持せられ子供の教育には尤も必要なる優良なる感情も

此間に知らず／＼に養成されつゝあり。自由を尊重せし結果食事時間の實に靜肅になし得る様になりつゝあり。此食事の際しては凡て準備は子供自身に當番を定め實行なし得ることにて、幾分精神修養にもなる様に感ぜられ。左に其狀況を聊か申述べん。

我園に於て食事時間を利用して優良なる感情を養ふ一端とせる實際に就て

我園の子供は辨當を持參することは任意にて又辨當を食する事は別段他の園とは何等異なる處もなき事ながら、只々保母の精神が此時間を利用して優良なる感情幾分たりとも養ひ度考へて研究なし居るものにして、昨今は最初の考へ以上に効果ある様に成り來れり。仲睦敷友達慈愛深き先生と一緒に卓を圍み會食することは子供心にも非常に嬉敷ことにて、こは獨り子供のみならず、大人にも又非常に楽しく、其れ故に此時を最初の考へ以上有益に且つ愉快に利用なし居ることなり。我

園に於て辨當を持參するに當り、第一に注意を要することは、幼稚園には極々少量の辨當を持參し後直に再度の食事をなす習慣まゝあり。故に此習慣を矯正せん爲め、此事に就きよく注意を與へ、成るべく多量に辨當を持參することを奨勵せる結果、昨今は子供自分の辨當の量多きを以て誇となし居れり。又室内は申に及ばず卓上は出來得る丈清潔にふき清め、之れには裝飾をなすことにて其裝飾は子供本位の嗜好に任せ、其裝飾の材料には生花盆栽玩具自然物其他交るゝ當番子供の考へに依て任意になすことにて、毎日ゝ其當番に當りたる子供の性格により、なかゝ面白き裝飾の出來得るなり。子供は申に及ばず大人ですら此會食時間を楽しみに待居ることにて、昨今はなかゝ裝飾も巧に種々なるものを利用して一見實に氣持よく感ぜらるゝなり。

當番の子供や保姆に依て準備出來上れば、相圖によりて屋外に遊び居る子供は會食に出る前には

先以て洗面所に於て手先を洗ひ衣服を正し、女子は髪をよくときつけ、つまり衣服を正して食堂に入ることにて、此時には不斷手に合はざる梳白なる子供も何となく氣高くして、一層人格の上りたる様に見受けらる。何分周圍の状態が優美なる故に平素よりそわゝ敷子供も何となく心落付て何れを見ても滿面に笑をたゝへ樂んでゐる有様は實に以て優良なる感情の養はれ居ることにて成べく心靜かにゆるゝ會食することに重きを措き居れり。當番の子供の茶椀を盆にのせ各子供の前にあどけなき手に依て一々配附さる。此時間中は誠に以て靜肅にして、何と形容の出來ざる迄昨今は利用行はれ居ることにて、之れに對しては殆んど一言の注意の語を用ゐたることなく、凡て暗示的により子供自らの動的に出でたる靜肅の態度なり。かゝる場合は極く子供は愉快の氣に充ち居る内にも整然となし居るは全く幾分眞の自由の發揮せられたる結果には非らざるや。以上は現在我國にて

行ひ居る有様を其儘記し、之れに對する感想を書き列ね此等の方法につき御經驗ある師の君の御批

評なり御指導を受けんことを祈りてやまず

『ピッ プ』の話 (ヂッケンス) (三)

英文學に現はれたる子供(二十八) 〳〵

岡田みつ

兵士の一隊が家の戸口に銃を下ろしたので、食卓に就いて居た一同は驚いて立ち上がった、ジョーの妻は空手で臺所へ戻つて來て「まあ！どこへ去つてしまつたらう。…あの饅頭は！」と云ひかけて、彼女も亦目を見張つた。先刻初めに僕に聲を掛けたのは軍曹であつたのだが、今彼は一同を見渡して手錠を差出しながら

「皆さん、御妨げをして濟みませんが、今此男の子に申しました通り（僕に何とも言はなかつたのに）私は御上の御用で追手に向つて居るの

で鍛冶屋さんに一寸用があるのでです」。

「鍛冶屋に何の御用があるのでせう」とジョーの妻は、自分の夫に用があるといふのが癢に障つて、さう問ひ返した。軍曹は、鍛冶屋を眼で探して、さう問ひ返した。軍曹は、鍛冶屋を眼で探して、ジョーに向つて、

「鍛冶屋さんかういふ譯なのだ、この手錠が工合が悪くて、よくキチンとならないのさ。今すぐ入用なのだが、一寸調べて見て呉れませんか」と言つた。ジョーは見て、之を繕ふには新に火を起こして、かゝらなければならぬから先